

## サーチライト With Pastor Jon 創世記7章 パート1

このメッセージはアップルゲート クリスマン フェローシップの、ジョン・コースン牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスマン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録するのを感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、目の治療をされました。どうか、りよくさんの病後の弱さを覚えて、お祈りください。

---

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」ヘブル4:7

メッセージ by ジョン・コースン牧師 アップルゲート クリスマン フェローシップ

<http://joncourson.com/>

7590 Highway 238 Jacksonville, OR 97530

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by Rumi

前回は、ノアが箱舟を造っているところで終わりましたね。

約 100 年間、来る日も来る日も釘を打ち付けて造った、箱舟と呼ばれる巨大なバージ。

これまで一緒に学んできた人たちはご存じの通り、それは、日曜学校の聖書物語の本で見ると決まりきった絵ではなくて、むしろ、とてつもなく巨大な棺桶のようでした。

貨物車 450 台分の信じられないほどの大きさ。

またそれは、救いの描写でもありました。

話すだけでワクワクしますが、これはすべてにおいて、神の激しい怒りと裁きから救われたことを表しているのです。

箱舟は、内も外も、木のやにで塗られていました。

ここで、“やに”と訳されている言葉『ケイファー』は、旧約聖書の他の箇所では、いずれも、

『ATONEMENT』『贖い』と訳されています。

『AT-ONE-MENT』一つになること。

箱舟は、ヨハネが「クリスマンには子供たち、若者たち、父親たちの3段階がある。」と書いたように、3階に分かれていて、色んな宗派や“味”を持っている全ての人たちが入るために、たくさんの部屋がありました。

だけど、戸は一つ。箱舟の側面に一つあるだけ。

イエスは「わたしは門（戸）だ。」と言いましたが、彼の脇腹は、カルバリーで木にかかった時に突き刺され、開かれ、それによって、私たちに救いがもたらされたのです。

戸はただ一つ。たった一つだけ。（\*創世記6章⑥）

しかし、窓は、開けるも閉めるもノア次第。

戸は、神が閉じたのでノアの自由にはならなかったけど、窓は、確かに自由に開けることができました。

それは、光を入れるため、悪臭を外に出すため、また、天国と関わり合うためと言ってもいいでしょう。

私たち個人も一人ひとりが、窓を開けて聖霊の光を取り込み、みことばの光で心を満たす、という同じ特権を持っています。

だけど、みことばや聖霊に心を閉ざし、拒否し、自ら暗闇の中に留まることを選ぶこともできましたね。（\*創世記 6 章⑦）

その他にも、箱舟が救いを表していることは、箱舟はゴフェルの木で作られ、イエス・キリストは、私たちを救うために木にかけられた、ということからも分かりました。（\*創世記 6 章⑤）

そして、話は続きます。

箱舟は完成し、ノアは主の声を聞きました。

主はノアに仰せられた。「あなたとあなたの全家族とは、箱舟に入りなさい。」（創世記 7:1）[Come thou and all thy house into the ark \(KJV\)](#)

“come” 「入りなさい／来なさい」

聖書の初めから終わりまで、何度も繰り返されるこの言葉が初めて使われた、私たちの主の口から初めて出たのがこの箇所です。

「さあ、来たれ。（[Come now](#)）論じ合おう」と主は仰せられる。

「たとい、あなたがたの罪が緋のように赤くても、雪のように白くなる。」（イザヤ 1:18）

イエスご自身も言いました。

「すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。（[Come unto me](#)）わたしがあなたがたを休ませてあげます。」（マタイ 11:28）

そして、聖書で最後にこの言葉が登場するのは、一番うしろの黙示録 22 章。

御霊も花嫁も言う。「来てください。」これを聞く者は、「来てください」と言いなさい。

渇く者は来なさい。いのちの水がほしい者は、それをただで受けなさい。（黙示録 22:17）[And the Spirit and the bride say, Come. And let him that heareth say, Come.](#)

[And let him that is athirst come. And whosoever will, let him take the water of life freely. \(KJV\)](#)

これが、主からの招きです。

次の章で学ぶので、「入りなさい／来なさい」“come” の箇所にアンダーラインを引いておいて下さい。

ノアは、「あなただけでなく、あなたの家族も来なさい！」と呼ぶその声を、確かにハッキリと聞きました。

私たちの主は、私個人だけではなく、家族の救いをも思っています。

なんと素晴らしいことでしょう！

私だけでなく、妻も、子供たちも。私の家族を。あなたにも同じです。

あの日、パウロがピリピの看守に言った言葉。

「先生がた。救われるためには、何をしなければなりませんか」と言った。

ふたり（パウロとシラス）は、「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます。」と行った。（使徒 16:30-31）

看守が見て、信じ、そのことで家族全員が救われました。

同様に、箱舟ストーリーの、まさに最初の部分で、救いを見ることができるのです。

ノアは主の心にならっており、正しい人でした。（創世記 6:8,9）

今、彼の家族全員が、揃って箱舟に乗り込もうとしています。

更に、神はノアに告げました。彼の家族だけでなく、

「あなたは、すべてのきよい動物の中から雄と雌、七つがいつ、きよくない動物の中から雄と雌、一つがいつ、また空の鳥の中からも雄と雌、七つがいつを取りなさい。

それはその種類が全地の面で生き残るためである。

それは、あと七日たつと、わたしは、地の上に四十日四十夜、雨を降らせ、わたしが造ったすべての生き物を地の面から消し去るからである。」

ノアは、すべて主が命じられたとおりにした。

大洪水が起こり、大水が地の上にあったとき、ノアは六百歳であった。(創世記 7:2-6)

ノアは、清くない動物をつがいで取るように言われました。

皆さん、多分、気づいていなかったでしょ？ 清い動物は、七つがいつ来ましたよ。

なぜ？ 理由はいくつかあります。

まず、主に献げるいけにえには、清い動物が必要だから。

もし雄と雌一匹ずつだけなら、それを殺すと、その種は絶滅してしまいます。

だから、いけにえを献げて主を礼拝するために、七つがいの清い動物が取られました。

でも！ いけにえのためだけではなく、もう一つの、私にはとても素晴らしい理由。

それは、バーベキュー。ノアと家族が食べるために、清い動物がやって来ました。

ノアは、自分の息子たちや自分の妻、それに息子たちの妻といっしょに、大洪水の大水を避けるために箱舟に入った。

きよい動物、きよくない動物、鳥、地をはうすべてのものの中から、神がノアに命じられたとおりに、雄と雌二匹ずつが箱舟の中のノアのところにやって来た。(創世記 7:7-9)

9 節の「雄と雌二匹ずつが箱舟の中の“ノアのところに” 入って来た。」これが面白い。

言い換えると、ノアは動物を集めようと行き巡らなかつた。

動物を集めようと、世界中を動物学者たちと一緒に回ることにはしませんでした。

以前、アダムがまだエデンの園にいた時、主が動物を連れて来て、アダムが名前を付けましたが、それと同じように今度もまた、神が動物を連れて来ているのです。

それが、ここで起こっていることです。

洪水の後の新しい世界に向かって、動物がそれぞれ 2 匹ずつ、次々とやって来ました。

罪のない新しい創造。

自分に向かってやって来る動物たちの行進は、そこに座っているノアには、実に壮大な光景だったことでしょう。

「動物は、仲良くやって来たの？ もしそうなら、どうやって？」

私に言えるのは、II コリント 5 章に書かれている通り。

だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。

古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。(II コリント 5:17)

主によって新しくされた動物たちが、一つがいつ、清い動物は七つがいつ、どう見ても奇跡的に、整然

と入って来て共存したのですね。

「ジョン、まさか、そんなこと、信じないよな!？」

じゃあ、南極のペンギンの行動は？

身長1m足らずの、ものすごい数のペンギンが、みんな同じタキシードを着て、氷の上に立っている。

同じ姿で、同じように歩く、色んな意味で全く同じような皇帝ペンギン。

その行動にはビックリです。

ママペンギンは産卵した後、南極水域へ出て行き、3か月間大食いするんですよ。

ママは卵を産んだ後、それを残して海へ出て、ひたすら食べ続ける。

一方、素晴らしいパパペンギンは、卵の上に立って世話をすることを任せられ、と言っても足で踏みつけるわけではなく、卵を覆って、体で守ること3か月。

定まった場所で、動かずに、卵を温め続けます。

そうして、卵が孵化すると、その途端、ママが3か月の食べる旅から帰って来る。

そして、みんな同じ格好をしている雄の中から夫を見つけ出し、夫に代わって、今度はママが赤ちゃんペンギンの世話をし始めます。

3か月間食べ続け、蓄えた中から、赤ちゃんに食べさせるのです。

これをディスカバリーチャンネルで見た時、感動しましたよ。

「ママペンギンは、こんなにたくさんの同じ格好をしたペンギンの中から、どうやって自分の相手を見つけるんだ!?! これは一体どうなってるんだ!?!」

彼女たちは、必ず自分の夫のところに帰って来るし、夫は、卵の本当の母親が戻って来るまでは、決して卵から離れないし。

本当に驚きです。私には、さっぱり分かりません。

これは、神が皇帝ペンギンにこのような本能を与え、特性としたのです。

それから、キョクアジサシ（\*カモメの類）も驚きです。

彼らは冬になるとハワイに飛んで行きます。悪くないですよ。

秋が近づくと北極圏を出てハワイへ向かい、冬休みをそこで過ごします。

でも、渡るだけの体力のない若い鳥たちは残して行く。

数か月後、幼かった鳥たちは強くなって、みんなで飛び立ち、自分たちで列をなして、ハワイにいる両親の元へと行くのです。

旅行代理店も地図もないのに。何がどうなっているのか!?!

キョクアジサシは、どうしてこんなことができるのか？

北極圏からハワイまで何千マイルもあるというのに、どうやって目的地を、行き方を知るのか？

それは、神が本能として彼らに備えたのです。本当に驚きです。

何年も前に、カリフォルニアのモントレレーにいた時のこと。

巨大なシャチが漁網に絡まって動けず、死にそうになっていたことがありました。

モントレレー湾でスキndaイビングをしていた人がそれを見て、ナイフを取り出して、網を切り始めた。

その様子は、当日の夜、ニュースでも放送されましたが、ダイバーがシャチの周りを泳ぎながら網を切る間、シャチは動かずにじっとしていたのです。

その光景は、まさにビックリでしたよ。

シャチはパニックにもならず、ダイバーを襲ったりもせず、暴れたりもしません。

ダイバーが助けに来たことを、よく理解しているのです。すごいと思いませんか!?

私にはキョクアジサシのことは説明できないし、シャチがどうして分かるのか知らないし、皇帝ペンギンがどうなっているのかも、さっぱり分かりません。

だけど、このことは完璧に分かります。

神は、ご自身が私やあなたにしようと思ったことは何でもできるように、動物界にもできるということ。

必要ならば、私たちの中の獣のような習性だって変えることができます。

それが、主のみわざなのです。

さて、ともかく、これらの動物たちが2匹ずつ、やって来ました。

ノアも家族も、それを見て興奮したでしょう。

#### それから七日たって（創世記 7:10）

7日かけて、動物たちのパレード、“7日パレード”は遂に完了しました。

文字通り、動物が箱舟に入るのに7日かかったんですね。

みんなが乗り込んだ舟の中で、それぞれが戦った—ネコがネズミを追いかけ、犬は猫に吠えた—と思いますか？

神が、これらの異なる種類の動物たちを救済船に乗せた時、何かをしたんですよ。

まさに、私たちにするように。

本来なら互いに噛みつき、吠えて、いがみ合っている人たちが、キリストに在って互いの共通点が分かった時、驚くような素晴らしいことが起こるのです。

彼らが舟に乗って、それから雨が降り始めました。

ノアの生涯の六百年目の第二の月の十七日、その日に、巨大な大いなる水の源が、ことごとく張り裂け、天の水門が開かれた。

#### そして、大雨は、四十日四十夜、地の上に降った。（創世記 7:11-12）

みことばを学んでいる人、ノートを取っている人は、『40』という数字が何度も出て来ること、それが裁きに関連していることを、常に覚えていて下さい。

イスラエルの民が、その世代全てが死ぬまでの40年間、荒野をさまよったように、罪に満ちた、肉欲の、邪悪な世を裁くための40日間、雨が降り続けました。

イエスは40日間、荒野で試みを受けましたね。

聖書の中で『40』は、裁きや試練、困難を表します。

40日間、夜も昼も雨が降り続けました。

ちょうどその同じ日に、ノアは、ノアの息子たちセム、ハム、ヤペテ、またノアの妻と息子たちの三人の妻

といっしょに箱舟に入った。

彼らといっしょにあらゆる種類の獣、あらゆる種類の家畜、あらゆる種類の地をはうもの、あらゆる種類の鳥、翼のあるすべてのものがみな、入った。

こうして、いのちの息のあるすべての肉なるものが、二匹ずつ箱舟の中のノアのところに入った。

入ったものは、すべての肉なるものの雄と雌であって、神がノアに命じられたとおりであった。それから、主は、彼のうしろの戸を閉ざされた。(創世記 7:13-16)

面白い。生き物は通常、互いに争うもので、普通は仲良くできません。

しかし、救いを意味する箱舟では、まさしく私たちが同じことを見出したように、みんなが平和と調和を保ち、一つとなりました。

そして、このみことばに注目して下さい。神学的にとっても大切なこと。

主は、彼のうしろの戸を閉ざされた。(創世記 7:16)

“戸”とは、誰のことですか？ 誰？ 「イエス」(\*会衆)

「わたしは羊の門です。」(ヨハネ 10:7) I am the door of the sheep.(KJV)

箱舟は救いを、イエスは“入る”という一方通行だけの戸を表しています。

今、戸は閉じられ、ノアと家族は箱舟の中に封印されました。

戸を開けて出て行くことも、「気が変わったよ。」と止めることもできず、見ての通り、封印されたのです。

ここから分かること、それは、「わたしが門だ。」と言ったイエスが、私たちは救いの中にいることを、保証してくれているということ。

イエスは言いましたね。

「だれもわたしの手から彼らを奪い去るようなことはありません。」(ヨハネ 10:28)

「だれもわたしの父の御手から彼らを奪い去ることはできません。」(ヨハネ 10:29)

「あなたがたは、父の御手の中にあります。」

私たちは、オールステート保険(\*Allstate Insurance 全米で個人向け保険業で首位を争う保険相互会社)ではなく、御父と長子である主、救い主イエス・キリストの御手の中にいるのです。

父なる神と主の両方の手があなたと私を包み込んで、私たちの救いは保障されています。

「じゃあ、永遠の保障(eternal security)を信じるの？」 はい、信じます。

あなたはどうか知らないけど、私は絶対に保障されています。

あなたは、自分の立ち位置を決定しなければなりません。

私は保障されています！ なぜなら、主が私を閉じ込めたから。

「ドアチェーンをきちんとかけるように。」とか「ちゃんと閉まるように。」「閉まったままになるように。」

などと祈りつつ、ノアが自分で閉めたんじゃない。

神が、箱舟の戸を閉められた！

私たちの天国への旅の救いの門を閉じられたように。私たちは封印されました。

「ちょっと待って！ ジョン、洗礼を受けたとしても、プロ級の信仰を告白したとしても、天国へ行けない人がいるのも事実だって、何年間も話していますよね？

なのに今は、『戸は閉められた。ノアと家族は封印された。永遠の保障を信じる。』と？」 はい。

「でも以前、一旦、箱舟に乗り込んだ人でも、天国に行けない人が本当にいる、と言いましたよね？」 そうだと思いますよ。

「どういうこと？」

これについて、とても分かりやすい話があります。

ちょうど、箱舟と同じように船での出来事で、洪水と同じように嵐に関する話。

これらのことを比較して、分かりやすく説明している。皆さんが知っている話です。

使徒 27 章。使徒パウロが、船でローマに向かっている場面。

パウロは船長に言いました。

「行ってはいけない。今の季節は風が強くて、海が荒れるから。」

しかし船長は、彼の話の聞かなかった。

パウロはローマに送られる途中の囚人だったから、「ヤツに何が分かる！」と思ったのでしょうか。

でもパウロは、何度も船で危ない目に遭っており、嵐や船の難破について、船長よりもはるかによく知っていたので、「この季節に船出するのは愚かで危険だ。行くな。」とアドバイスしたのです。

それでも船長は船を出し、そうして、嵐がやって来た。

聖書は鮮明に書き記しています。

波は高く、風は吹き荒れ、みんな恐怖に怯え、パニックになり、デッキで嘔吐し…光景が目には浮かびますね。

全員が死ぬと思ったでしょう。

その時、使徒パウロは、主からのことばをみんなに伝えました。

「元気を出しなさい。」(使徒 27:22) どういうこと？

「昨夜、私の主で、私の仕えている神の御使いが、私の前に立って、こう言いました。『恐れてはいけません。パウロ。あなたは必ずカイザルの前に立ちます。』

言い換えれば、『必ずローマに着く』

そして、神はあなたと同船している人々をみな、あなたにお与えになったのです。」(使徒 27:23 - 24)

暴風が吹きまくり、船が大揺れに揺れる中、幻なのか御使いが来たのかは分かりませんが、彼が言うのを聞きました。

「パウロ、あなたはローマに行く。同船している兵士、船員、囚人もみんな。命を失う者は一人もない。」

だから、パウロは言ったのです。25 節。

「さあ、皆さん、元気を出して！ 私は神を信じます！」

つづく

見よ、わたしは手のひらにあなたを刻んだ。

あなたの城壁は、いつもわたしの前にある。(イザヤ 49:16 新改訳 2017)